

新聞雜誌

明治辛未十月

第七號

定價三枚



特	別
18	
787	
17	



緒言

凡天下ノ物事日ニ新ナルニ我未タ見聞セザルヲ知テ吾知識ヲ廣ムルヨリ  
 樂シキハナシ見聞ノ狭キ田舎人ハ心頑ニ知暗ニテ疑懼ムク多ク竟ニ我ヲ  
 是トシ人ヲ非トスルノ過アリ今日カハル辱キ 御代ニ逢ヒテモ遠境ノ人ハ  
 大政ノ日マテモ知ラテ却テ疑非ル者モアルベシカクテハ逢ガタキ世ニ生レシカヒ  
 ナシ今 官許ヲ受テ新聞私局ヲ開キ 大政ヲ始メ諸府藩縣ノ愛革  
 又ハ里巷ノ瑣事外國ノ異聞マテ見聞ニ随ヒ刊行スル我 日本國中  
 人々ノ新知ヲ開クノ樂ヲ同シ頃ハ心僻メル事ヲ棄シテナリ頑ニ此冊子  
 ヲ読玉フ人々ヲ聞クニ推シ近ヲ知テ遠ヲ察シ天地間ニ我意外ナル驚可シ  
 喜可キ事多ク唯 隅耳ヲ見ルハ田舎人タルヲ免レズ夏虫氷ヲ疑ノ笑有リ一知  
 玉ハサテソノ復古ノ 大御代ニ生レシ人タルニ負カジト云ヘケレ

新聞雜誌第十七號

明治四年辛未



○古器ノ珍藏シ以テ保全スベキ所以ハ制度沿革ヲ考  
 証スルノ一端ニシテ切リニ破壊ス可ザルト已ニ 聖  
 諭ノ降ル所ナリ頃日從四位德川昭武 聖旨ヲ奉シ貯  
 藏ノ古樂器及ビ舞樂裝束等 官庫ヘ献納有タリ其額  
 文ノ畧并樂器品目左ノ如シ 小石川元水 戸縣邸園中  
 涵徳亭ニ於テ光國以來相用齊昭代ニ至リ別テ愛藏仕  
 置候古樂器類目錄ノ如ク何卒献納仕度云々 琵琶二  
 面 銘 小席 箏 二弦 銘 立田川 琴 四弦 銘 周南、  
 箏 大雅 笙

五管 銘五鳳九菊壽丸子 筆筆一管 銘小男 笛四管 銘

蓋田鶴花月丸 太鼓二鼓 羯鼓二鼓 鉦鼓二鼓

弘前縣權大參事杉山龍江同木村建同小參事佐藤

正熙同岩淵直惟同神盛苗等辭職上表寫

臣等伏テ言ス 太政復古萬機更始ノ日ニ際際ニ誤

テ參事ノ重任ヲ辱シ任奉職於今曾テ尺寸ノ功ヲ奏

セズ願ニ素餐ノ責逃ル、所ナシ臣等實ニ恐悚ノ至ニ

不堪今ヤ 朝廷新ニ藩ヲ廢シ縣ヲ置有名無實ノ弊ヲ

除キ大ニ制度ヲ一ニシ以テ萬國ト對峙セントス 皇

連隆盛日ヲ期シテ見ルベシ然凡賢ヲ舉能ニ任シ 聖

謨ヲ贊成スルニ非ズンハ又馬ノ其効ヲ致シ願ニ臣

等素ヨリ薄徳菲才自ラ過ヲ補フニ暇アラズ豈敢テ再

ヒ僥倖ヲ望ムンヤ即チ謹テ別紙辞表ヲ奉シ以テ 朝

命ヲ待唯恐クハ道路遼遠 命下ル當ニ日アルベシ然

シテ縣事百端一日其務ヲ曠フスベカラズ是ニ於テ臣

等相共ニ愷議假リニ參事ノ事ヲ撰執シ以テ且夕 朝

裁ヲ仰ク耳是臣等惓願ノ至ニ勝ヘズ云々又同縣權大

參事大道寺繁禎同少參事山野元敏同様辞職ノ上表セ

ル由

横濱刊行ジヤハンガセツト新聞節譯

此度佛國ヨリ宇國へ差出ス戦争償金五十億フラング  
 九我十ヲ或人試ニ佛國五フラングノ金貨ヲ以テ精美  
 セシニ此重サ五千五百萬斤ナリ若シ是ヲ連接シテ地  
 上ニ布ケバ殆ト地球ヲ一周ス又是ヲ積重マレハ萬サ  
 千六百七十六里ノ金柱トナルベシ此柱ヲ巴里斯ノ中  
 央ニ建テ試ニ伯靈都府ノ方ニ向テ倒サバ伯靈ハ金柱  
 ノ長ク三分一ノ處ニアルベシ又人アツテ一字間ニ一  
 萬ノ五フラング金貨ヲ算ヘ上ル割合ヲ以テ一ケ年三  
 百日ト定メ毎日八字間ツ、算ヘ立レハ其人三十歳ニ  
 初テ七十歳ニシテ算ヘ終ルベシト云リ○東海道路

ノ並水ハ夏ハ日陰ヲナシ冬ハ風雪ヲ防ギ且ツ其觀美  
 ニシテ大ニ旅情ヲ慰スルモノナリシヲ近頃東京ヨリ  
 大坂へ傳信線ヲ懸クル為メ横濱小田原ノ間此並木ヲ  
 切拂ヘリ此ノ如ク切ラズトモ決シテ暴風ノ為メニ破  
 ラル、ノ患ハナカルヘキニ大ニ街道ノ風景ヲ失ヘリ  
 傳信線ヲ張ルノ後ハ他日必ず鏡道モ設ルナルベシ其  
 時ニ及テ復ビ植ルモ能ハズ實ニ殺風景ト謂フベシ○  
 上海日刊新聞ニ云シヤンスト云船ニテ天津ヨリ一萬  
 六千テールノ程ノ棹金ヲ上海ノ商社へ積ミ送リシニ  
 盜ノ爲ニ奪ヒ取ラレ其蹤跡更ニ分ラズ穿鑿中ナリ

○先頃武州千住邊ノ商人山谷土手ヲ通行ヒシニ借提  
 ノ絹衣裳ニテ駕籠ノ内ヨリ呼止メシ者アリ誰ナラン  
 トヨク見ルニ預テ見知タル元穢多ノ者ニテアリケリ  
 彼云フ吾等多年吉原樓上ノ宴游ヲ羨ミ居シガ此回ノ  
 御仁政ニテ始テ宿志ヲ遂ルフヲ得タリ已ニ昨夜モ一  
 大樓ニテ頗ル歡樂ヲ極ム今ヤ即チ再盟ヲ尋ントス幸  
 凡ト同伴セバ如何ト商人漸ク事ニ托シテ辞シ去レリトシ  
 ○頃日吉原何樓カ知ラズ元穢多ノ者一娼婦ニ通ヒシ  
 ニ兼テ富有ノ者ナレバ流石ニ娼妓モ一時我身ノ助ケ  
 ニセント之ヲ騙シ愛シケレバ誠真已ニ情アリト思ヒ

許多ノ金錢ノ盡ルモ知ラズ衣類迄モ典却シ猶情好ヲ  
 求ノシニ娼妓ハ最早是迄ト見限り愛想眷戀ナキノ  
 ナラズ刺ヘ一首ノ狂歌ヲ讀ミ與ヘシトゾ其歌ニ「宿縁  
 カ穢多ガ狐ニダマサレテ毛物ドコロカ身ノ皮ヲハグ  
 男モ頓ル洒落モノト見ヘテ其反歌ニ「其昔シ毛物ハギ  
 タル報ヒ来テ身ノ皮キリテ肉ニ喰ハル」想ノニ先日  
 山谷ニテ商人ニ誇リシハ定テ此者ニテヤアランカ  
 ○箕作大六倫敦ヨリ其父秋平ニ送レル書中ニ豚兒健  
 康ニシテ勉學セリ比日學校ノ試業アリ幸ニ尤ノ如ク  
 六課ノ褒賞ヲ得タリ 英學 數學 地學第一等 測

地學第二等 地圖ヲ画ク術 佛學第三等 兎此度  
 チン并ヤリシヤ學ニ達セザルノミニテ進テ大學校ニ  
 入ル能ズ實ニ遺憾ニ堪ズ今ヨリ更ニ憤勵此ニ科ヲ研  
 究シ來歲ハ必ズ大學校ニ入ルヲ期セリト云ル 又三  
 宮某ヨリ添贈ノ書ニ云令息勉學無他近來大ニ進歩ア  
 リ已ニ此頃試業ニ六課ノ褒賞ヲ得タリ一課スラ頗ル  
 難キ事ナルニ六課ニ至テハ實ニ驚嘆ニ堪ズ令息ノ師  
 タル者モ其穎敏ヲ稱贊セリ此事一時新聞紙ニモ出テ  
 英國内ニ傳播シ 皇國留學生ノ面目ニ關係セル丁ニ  
 テ僕ヲ輩モ大ニ悦喜セリ少年生徒之ヲ聞カバ又憤發

ノ一助トモナランカト云々

横濱刊行「ジャッパン」へラルト新聞抄譯

今朝九月廿七日我德嶋縣ノ船ボシウ丸品川へ入港ノ砌  
 東京ヨリ横濱へ至ル日本ノ荷船ニ衝突セリ德嶋士官  
 ノ意ヲ用ヒズシテ其船ヲ取扱ヒタル「ハイナガ」船  
 ニ乗組タル外國人皆之ヲ見タリ然ルニ德島ノ船ハ彼  
 荷船ノ沈没セシヲ救ハンガ為ニ蒸氣ヲ止ントモセズ  
 直チニ駛セ去レリ碩クハ德島縣ヨリ此隣ハベキ舟夫  
 等ニ厚ク償アル様ナシタシ○洋銀ノ相場下落シテ百  
 元ニ付一分銀三百三十五箇ニ至レリ 銀五十匁ニ○蠶

新開雜記 卷一七  
印紙ノ買人ハ大抵既ニ此地ヲ出立シテ歐羅巴ニ歸レ  
リ之ニ由テ價下落シ極上品一枚僅ニ廿五匁ヨリ四十  
匁ノ間ナリト云日本人明年ハ例年ノ半高ヲ造リテ是  
迄ニケ年ノ損失ヲ償ハント云實ニ日本人ハ多ク生糸  
ヲ作リテ蚕印紙ヲ減スベキナリ○普ノビスメルクト  
埠ノ「ピウスト」トノ近頃ノ商議ニテ「日耳曼」埠地利魯西  
亞「以太利」ノ諸國和親ノ盟約アリ他日若シ歐洲ノ靜謐  
ヲ攪擾セント企ル者アラバ此諸國舉テ之ヲ伐ント約  
セシ由ノ風説アレ凡此ハ一般ニ信用シガタシ又「奧地  
利」帝「日耳曼」帝ト次週ニ「サルズブルグ」ニ會シテ國事ヲ

議セントスルノ説アリ殊ハ實説ナラン○「佛蘭西」國會  
ニ於テ劇論兩日ノ間續キテ竟ニ「チエル」氏ニ共和政治  
ノ大頭領ノ稱號ヲ與ヘ其行事ヲ會議衆ニ答フ可クハ  
諸宰相ヲ黜陟シテ可ナルノ全權ヲ許スノ建議書ヲ出  
セリ○「ストラスブール」故ト佛ノ地ニ萬三千餘ノ人民  
「佛蘭西」瑞西及「米利堅」ニ移住セントテ當地ヲ去レリ若  
シ此割合ニ移住スル者引續クナラバ久シカラズシテ  
「アルサス」ノ地ニハ一人モ住スル者無キニ至ルベシ此  
事件「佛國」ヨリ見ルトキハ頗ル愉快ニ思フベシ且「佛國」  
ハ「敗」屢ノ後ト雖「庄」猶人望ノ歸スル所アルヲ見ルニ足

レリ然レモアルサス人移住ヲ弭メテ猶其處ニ止リ居  
 ラハ却テ國家ノ為ニハ善謀ナラン○九月廿日横濱碇  
 泊ノアル船ニ於テ先日東京ノ船頭ヲ砲撃シタル口  
 スリシテウリ」名ノ事ヲ裁判アリタリ同人六百「ラ  
 ング」ノ過料ヲ出シ其上ニケ年ノ入牢ヲ命ゼラレタリ  
 ○先般東海道熱田鳴海ノ間桑名四日市ノ間ニテ西度  
 劍便飛脚ヲ切害シタル盜賊アリシニ官ヨリ沼道ノ  
 縣々へ嚴重探索捕縛セシムベキノ命下リ此節右賊魁  
 滑川源吾彌藤次ヲ初メ數名ノ黨類悉ク召捕ニ相成タ  
 ル由誠ニ尋常市街ノ飛脚ト變リ當ニ衆人ノ辨用ノミ

ナラズ重キ官廳ノ公用ヲモ達スル劍便ナレバ右様  
 異變ノ時モ官ノ取締嚴重ニテ直キニ賊徒捕縛ニ就  
 キ後來防護ノ方法モ更ニ確立スルニ至ルモノ實ニ四  
 方通信者ノ大幸ト云ベシ殊ニ右切害ニ逢タル者ヲ憐  
 めセラレ其家族共へ許多ノ金子ヲ賜ハリシ由仁慈ノ  
 恩政感奉スルニ餘アリト云ベン  
 ○或人云從來ノ文學ハ皇漢二國ノミ今ヤ五大洲ノ  
 學興レリ此ニ達セザレハ通儒ト稱シ難シ今ノ學者豈  
 一層勉強セザル可ンヤ古人寸陰ヲ惜ム今人宜ク分陰  
 ヲ惜ヘシ閑話ハ邦人ノ通病ニシテ偶一箇ノ用事ヲ説



ントスル前後必ズ徒爾ノ閑語ヲ雜ヘリ甚キ者ハ終日  
 徹夜空ク口舌ヲ費シ宛モ醉人ノ重語病客ノ謔言ニ等  
 シ此等ノ人ハ自ラ事業ヲ成ス能ハサルノミナラズ大  
 ニ他ノ勉強ヲ妨ケリ洋人ハ絶テ此惡習ナシ米人ケ  
 ロン曾テ言フ日本人ノ我ヲ訪フ者多クハ米國ノ寒暖  
 如何ヲ問ニ過キズ夫米國ノ寒暖ハ地理書ニ在テ詳  
 リ何ゾ必シモ此等無用ノ談ヲナサント此言吾輩頂門  
 ノ一針ナリ總テ人ヲ訪フニモ已カ閑暇ナルヲ以テ他  
 ノ繁務ヲ顧ミザル者アリ注意セザルベケンヤト

新聞雜誌第十七號終

報告

余壯齡ヨリ持ニ心ヲ眼科ニ專ニシ西籍ヲ涉獵ス  
 既ニ久シ然モ從來傳フル所ノ方法掇ル可キ者甚稀ナ  
 リ動モスレバ輒為メニ卷ヲ掩テ嘆惜ス蓋西醫ノ道日  
 新ノ業ナリ其治術ノ梗概ヲ舉レバ則物ニ格ヲ知  
 致シ其理ヲ明瞭シテ以テ其秘ヲ探リ其源ヲ窮ム  
 迨テ其學大ニ進ミ眼科治法發明スル所ノ者亦鮮カ  
 ラズト為ス故ニ昨日治セザルノ病今日治ス可シト為  
 ス者往々之アリ乃官暇其書ヲ譯述シ一ハ則其法ヲ發  
 シテ以テ世ニ布キ一ハ則其術ヲ施シテ以テ病ヲ治シ

遂ニ關境ノ士民ヲシテ眼目ノ患ヲ除カシメント欲ス  
 是レ吾ガ疇昔ノ宿志ナリ然レ官途鞅掌東奔西走シテ  
 久シク其業ヲ廢ス而シテ今復官暇將ニ素志ヲ償テ以  
 テ養生ヲシテ開化ノ餘澤ニ浴セシメントス若シ眼ヲ  
 患フ者來テ治ヲ求ルコトアラバ誤認テ坊間尋常ノ販藥  
 者流ト為スコトナカレ 家ハ東京牛籠御門内飯田町北  
 二合半坂下ニアリ 三浦有恒謹白  
 一寺佛戰記 芳川春濤先生譯 初篇二篇

右私店ニ於テ發兌仕候間 御求奉希候

東京日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛

撰者伏テ四方ノ君子ニ告ゲ奉ル本局既ニ 官許ヲ得テ新聞紙ヲ刊行ス  
 其旨意ハ前ニ述レ所ノ如シ但シ奇事異聞耳目ノ及ハサル處多シ願ク同好ノ人  
 何事ニヨラズ其處々ノ新聞ヲ書集メ本局及ビ下ニ列スル賣弘處ニ寄セ玉  
 ハ次第ニ刊行發兌スベシ但シ寄玉フ書付ニ其住處姓名ヲ必ズ載セ玉フ  
 可シ無名ノ書ハ敢テ采入セズ無根ノ浮言造説アルヲ恐ルナリ

- 一切賣買ノ引メ等望ニヨツテ出版スル事件
  - 一田地山林家屋舟車等ノ賣買貸借
  - 一新發明巧器及書籍等ノ賣買
  - 一產物器具食品藥劑等一切ノ賣買
  - 一金銀其外ノ貸借等
  - 一諸船ノ入湊出帆積荷ノ物件等
  - 一失物尋物等
  - 一店ヒラキ新規賣出等ノ引札
  - 一觀セモノ集會等ノ引札
- 右等何レモ一行廿三字一度出板價三匁宛同事件一ヶ月分ハ八匁五分  
 三月分ハ廿四匁五分六ヶ月分ハ四十六匁ニテ引受イタシ候

新聞雜誌定價

一號定價銀二匁 當分一月三號宛出極

二三月分引受候向定價ヨリ一割半引

一々半年分八三割引

右定、通約定前金受取候六毎號發兌順序ヲ逐ヒ本局ヨリ御届致候又遠方取次賣弘方望ミノハ本局引合上御相談可申候

六ヶ月分八二割引

東京小川町今川小路

本局

日

新堂

同兩國横山町三丁目

賣弘所

和泉屋金右工門